

〔資料紹介〕

和刻本『三字経』目録解題

小野澤 路子

一、前言

近世日本人にとって漢籍がどのような役割を果たし、日本文化の形成に關与したかを考察する上で、和刻本の出版量を把握することは不可欠である。輸入された唐本そのものは絶対数が少ないから、利用者の数も限られ、直接的に裾野の広い影響を与えたとは考えにくい。一方、我が国で開雕にまで至った漢籍は、我が国での需要があり、或いはあると思われる証拠を示しているのであって、特に当時の人々に利用された或いはその可能性のあった漢籍と言えよう。版本を彫り、紙に刷り、装丁して売る出費を回収し、更に利益を生むとの計算が成り立たなければ、町版は成立しないからである。和刻本漢籍は、必ずしも営利出版のみの刊行ではなかったが、それでも多くは民間の出版であり、官版や私家版にしてもその存在は写本や活字印

本では間に合わない量が必要であったことを示している。つまり、和刻本漢籍は、我が国で必要とされた漢籍がどういったものかを示しているのである。異版本の多さは当該漢籍の需要の確証であり、漢籍の我が国への影響を考察する上で、特に注目すべき対象であると言える。

和刻本漢籍の中でも、一部の漢籍に版種が多いことは、長沢規矩也『和刻本漢籍分類目録』^①に明らかである。同書は多数の版種を挙げた上で、孝経・五経・四書・十八史略・唐詩選・三体詩・古文真宝・千字文・三字経・白鹿洞書院揭示・小学等の記述を不完全とし、補正版に三体詩及び古文真宝について版式などの特徴を別表にして載せる。また『孝経』には阿部隆一・大沼晴暉「江戸時代刊行成立孝経類簡明目録」^②がある。とはいえ、こうした版の異同までも含めた資料整理のなされているものは、現在のところ希である。例えば、尾形裕康『我国における千字文の教育史的研究』^③は千字文とその類型本を多数集

めるが、版の異同にまでは言及していない。また、鶴島俊一郎『『三字経』の江戸期刊本について』⁽⁴⁾は、書名を異にする三字経の紹介までに終わっている。

以上のような同名異版本の研究が決して盛んとは言えない要因は、版種の異同の弁別が困難という点に尽きるだろう。同一の刊記を有する版本も存在するため、一々を比較しなくては正確な結果は得られない。四書五経の類のうち、揃いでないものには、単行本か、合刻本か、また完刻された合刻本か否か、と判断を苦しめる要素が更に加わる。特に初学者向けのテキストの場合、別版も含んだ発行部数の多さによって希少性を欠き、版本としての注目度を低くしてしまっているのではあるまいか。初学者用となれば内容研究の立場からの必要性も薄く、おろそかにされてきたように思う。

本稿は、筆者が実査を行った『三字経』とその注釈書・準漢籍を含む一九点の解題目録である。『三字経』は原文わずか千余字からなり、復冊に分かれる和刻本を見ないから、和刻本漢籍の中では扱いが容易な方かもしれない。ただし、無刊記のものが多く、覆刻本も多い。出版当時から無かったのか、それとも破損や表紙の付け替えの際に抜け落ちたものなのか定かではないが、刊記・奥付を欠き出版年を特定できない版本が、特に江戸期に刊行されたものに多く見られる。

『三字経』は、宋の王応麟の撰と伝わるが異説もあり、はっきりしない。三字一句で二句ごとに韻を踏み、歴史や故事、名数などの基礎知識、更に学習の意義を説き促すといった内容で載せる。中国では「三・百・千」といって『百家姓』『千字文』と一括りに呼ばれるような、要するに四書五経以前の初学者向けのテキストである。⁽⁵⁾我が国での『百家姓』の出版は寛保元年京都植村玉枝軒刊本のみだが、『三字経』『千字文』の和刻本は多い。『千字文』は、応神天皇の時に王仁によって将来されたとの通説があるくらいで、古くから日本文化に影響を与えてきた。『三字経』は明暦四年刊本『新鐫三字経註解』以前の資料は写本も含めて管見に至っていないが、江戸中期から明治初期にかけては多く刊行された。日本史を述べた大橋若水撰『本朝三字経』が嘉永六年に刊行されているが、三字句の記述形式のみにとどまらず、『三字経』という語を書名に残しているところからも、本書における当時の普及度が知れよう。他にもこのような三字経に倣った和本は『女三字経』や『天文三字経』など数多ある。

『往來物解題辞典』⁽⁶⁾「三字経」の項には、「最も普及したのが天明七年板系統であった。……本書ならびにその模刻本が数多く出版された。同系統本はいずれも本文を大字・五行・無訓で記し、巻末に小字・一一行・付訓の本文を再掲する」とあるのが、和刻本『三字経』について一般的な見方であろう。『日本

教科書大系⁽⁷⁾が載録する三字経全文も、天明七年の序文をもつ五行本を翻刻したとあるし、玉城要「『三字経』訳注」⁽⁸⁾や片野英一「伝王応麟撰『三字経』要訳」⁽⁹⁾も天明七年版に基づくとする。

この異版が多いとされる「天明七年版系統」だが、漠然と多いという認識はあっても、系統分けの具体的な方法や版の数について記述したものは存在しないようである。筆者目睹の天明七年の序をもつ版本だけでも六種類あるが、中には書体の異なるものもあり、天明七年版に基づくといっても覆刻本ばかりとは言いい切れない。それに、封面や序は重刊や改装の際に欠落する恐れもあり、「天明七年刊本」或いは「天明七年序刊本」と判断できるものばかりではない。まして、同一版式というだけで天明七年版系統と分類するのは危険である。

「天明七年板系統」について、『往来物解題辞典』は見返の記述⁽¹⁰⁾によって「乾隆戊戌……に刊行された中国版本を天明七年に複製したもの」としている。これに該当する乾隆四十三年姑蘇清華齋刊本が内閣文庫に所蔵されており、⁽¹¹⁾こちらも五行本である。この唐本の本文末丁裏に「龍街漫士書」との記述があるが、和刻本『三字経』の五行本にも本文末に「龍街漫士書」とあるものがある。そこで、本文末丁に「龍街漫士書」とあるものを所謂「天明七年版系統」と位置づけて概要の把握を試みることにする。誰の書かを明記することは筆跡に意味があ

るのだろうか、筆跡を残すためには覆刻が一番容易な方法であろう。覆刻ならば、文字の変更は版木を彫る段階で起こる程度のごく微細なものにとどまる可能性が高い。現に、天明七年の序を持ちながら「龍街漫士書」との記載のない一本の書体には、「龍街漫士書」とある一群と比べて著しく異なるものも存在する。更に、「龍街漫士書」の記述は本文にあるため序跋等に比べれば欠落や付け替えの心配も少なく、この点からも判断材料とするのに妥当であろう。さて、本目録所載の版数を数えてみたところ、九版種に「龍街漫士書」の記述⁽¹²⁾があり、明治以降の刊行が明記されたものや準漢籍にはみられなかった。『三字経』の書名を掲げる和刻本は四十六版⁽¹³⁾、そのうち江戸刊本と明治以降の刊記がないものをあわせても二十三版である。二十三版中九版という結果は、天明七年版系統が明治までの『三字経』の流布本だったとするのに十分な数と判断してよからう。

上記の天明七年版系統本は全て五行六字本であった。「龍街漫士書」の有無に関わらず五行六字の版式を持つ和刻本は、本目録中二十七版、準漢籍は四版である。それ以外のものは、特に別系統本の可能性を多く含むものの、単に体裁を変えただけかもしれないし、現段階で判断できるものではない。ここでは、天明七年版の普及が指摘された結果、却ってその影に隠れてしまっていた別版式の和刻本『三字経』も少なからず存在し

たことと、これらの具体的な書誌を示した。更なる版面の綿密な比較により、同版か異版かの検討をすべきことは、冒頭で述べた通りである。本目録は、文庫調査などで『三字経』に行き当たった時の指標となることを期して、版式を重視した分類を行ったことをここで断っておく。加えて、異同の判別をした理由を明確にするために、各版の特徴として文字のトメ・ハライ等からも区別できるよう明記し、特徴ごとの画像を表にして附した。

日本人にとって、これら初学者用漢籍がいかなる場面で行きように位置づけられるものであったのか。そこには中国での用いられ方と何らかの違いがあったのか。今後は、版本の形態、序跋の内容のみならず、それが利用された時代背景までも含めて考察を進めていきたい。『三字経』だけをとってみても、識字テキストとして用いられたのか、書写テキストだったのか、中国の故事を多く盛り込んだ内容や押韻が我が国の児童にどれほど必要なものだったのか、漢文訓読のテキストとしての可能性、これらの要素が複合している場合など、多様な利用価値が想定される。さらには、注釈が多ければ記述内容を重視していたことが、書家による版下ならば書写テキストであった可能性が、推察できるに違いない。異版本を多く持つ和刻本漢籍全般の出版状況を把握することは、我が国における漢籍需要の実質を理解する上で、出版量の多さゆえに、極めて意義のあること

であると考ええる。『三字経』以外の多版本についても、実態調査を行う必要を痛感するところである。

本稿で挙げた資料の他に、国文学研究資料館所蔵のマイクロフィルム等で存在のみ確認したが未見の別版『三字経』があること、またそれ以外の版本の存在も恐らく確実で、その意味でも本稿は不十分な解題との謗りを免れまい。筆者の未確認の資料についてご教示いただければ幸いである。

注

(1) 長沢規矩也『和刻本漢籍分類目録 増補補正版』(汲古書院、二〇〇六年)

(2) 阿部隆一・大沼晴暉「江戸時代刊行成立孝経類簡明目録」森武之助先生退職記念論集(『斯道文庫論集』通号十四号、一九七七年)

(3) 尾形裕康『我国における千字文の教育史的研究』(大空社、一九九八年)

(4) 鶴島俊一郎『「三字経」の江戸期刊本について』(『東洋文庫』八九号、二〇〇二年)は、八種の刊本を載せるが『新鐫三字経註解』『三字経』『三字経訓詁』『三字経抄』『三字経国字解』『官板三字経訓詁』『三字経童子訓』『正書三字経』と全て異なる書名であり、同名異版についての記述

はない。『三字經』の項で、『往来物解題辞典』天明七年版と同一内容の封面・序・本文・小字本文を持つ一本を挙げて、異版多く架蔵本五種とするも「さきに異版といったのは〔見返し、〔三字經序〕、〔三字經〕本文、小字本文、奥付〕のうちいずれかを欠くもの（甚だしきは〔三字經〕本文〕のみの版もある）が見られるということである」（一）内は、同稿で略記されている箇所を筆者が補ったもの）とあるから、「異版」の語の示すところは、本稿でいう「異版」とは異なるようである。

（5）村上嘉英「三字經について」（『天理大学学報』二十三号、一九七二年）を参照。

（6）小泉吉永『往来物解題辞典』解題編・図版編（大空社、二〇〇一年） 図版編掲載の書影により、冒頭書名「三字經」の一行を加えれば巻末は「一二行」になる。

（7）石川謙・石川松太郎編『日本教科書大系』往来物編 第五卷（講談社、一九六九年）「天明七年（一七八七）九月の日付のある序文をもつ刊本……本文一八丁、一頁に一〇句を収めてある。返り点・送りがな（片かな）をくわえてあるが、ふりがなはつけていない。……巻末に本文を楷書・細字で繰り返し書き、平がなによって総ふりがなとしたもの」によって翻刻したとある。通行本か否かについては言及していないが、天明七年序刊本である。

（8）玉城要「『三字經』訳注」（『作新国文』通号十四号、二〇〇二年）「訓読に際しては江戸天明七年（一七八七）刊行『新刻 三字經』（日本で刊行された中で最も普及したのがこの天明七年板系統である……）をはじめ……十一種のテキストを参考」にし、校訂した本文を用いたようである。

（9）片野英一「伝王応麟撰『三字經』要訳」（『アジア文化研究』十号、二〇〇三年）「額田正三郎『三字經』天明七年（一七八七）を底本とした」とある。ただし、全く別系統本に則っていることは、語句の異同から明らかである。

『三字經』の系統については、次稿に譲りたい。

（10）「見返し」「乾隆戊戌新鐫／三字經／姑蘇閭門内護龍街／大関帝廟壯有姚清華齋藏板天」と記されている」とあるが、図版編から判断するに「乾隆戊戌新鐫／三字經／姑蘇閭門内護龍街／大関帝廟北首・姚清華齋藏板」の誤りであろう。
（天ナシ）

（11）三字經一卷 内閣（299.24）

龍街漫士書 乾隆四十三年姑蘇清華齋刊本 全一册

左右雙邊縱十六・三横十二・一 無界五行七字相當 無魚

尾白口 無點

首「三字經」末有「龍街漫士書」

封面「乾隆戊戌新鐫／三字經／姑蘇閭門内護龍街／大関帝廟北首姚清華齋藏板」

版心題「三字經」

題簽位置に「三字經 全」との書付あり。

玄を元にする。

鈴有「鳴溥平／氏淵玩」「高江文／房之印」「昌平坂／學問所」「淺草文庫」

(12) 「竜・街漫・土書」(17) を含んだ数。

(13) もともと準漢籍だったものに手を加えた一版(56)を含んだ数。

二、凡例

書名

書名は巻首題によって定める。巻首題のない場合は、版心・封面の順により、その場合は依拠した箇所を「(封面)」のように注記した。また、『国書総目録』が巻首題以外の書名を用いている場合は、通行書名と判断して書名下部に「(即〇〇)」と付記した。

分類

本目録解題における分類の骨子は、以下の通り三部立てとし、更に年代及び版式によって配列した。

一、和刻本漢籍

唐人の漢語による著作物を本邦で刊行したもの。

・『三字經』

書名を『三字經』とするものは、宋王応麟の著述と伝わる漢籍として、ここに載せる。なお、王応麟の名(字号等を含む)が明記されている和刻本漢籍『三字經』に限り、著者名にもその名を載せた。

・明清注釈書

『三字經』に対して唐人が漢語によって注釈したものを、本邦で刊行したもの。これに該当する注釈書は明以降のものしか確認していない。

二、準漢籍

唐人の漢語による著作物を原文としながら、邦人によって体裁を崩したもののうち漢学(中国の学問大系)に則っていると判断されるもの。邦人が書名を改めたもの。

中国では、時代が下るにつれて歴史部分に増補を行った『三字經』が現れるようになった。準漢籍に分類した『増補三字經』の類も、もともと唐人によって既に改題した唐本があつて、それに基づいた和刻本漢籍である可能性もある。しかし、依拠した漢籍が明確で無い我が国で刊行されたこれらは、ひとまず準漢籍と分類しておくのが妥当と考える。

三、和語註解本

唐人の漢語による著作物を原文としながら、和語を用いた注

釈のついたもの。和語による点が、準漢籍ほど漢字に依拠しているとは言い難いので、別に分類項目を立てた。

掲載順は、基本的には年代によるが、和刻本漢籍「三字経」及び準漢籍は、行数・字数を優先させて分類した。これは、覆刻関係にある別版をできるだけ近くに記載し、版の弁別に資するためである。

同版資料の記載について

掲載資料のうち、同版のものがある場合は、出版年代等に関わらず、最も初刷りに近い掲載資料の直後に載せる。その際、蔵書印・書入を除く全てにおいて同一の場合は「同」とし、後印或いは補修等による変更がある場合は「同版」とした。「同版」の書誌には、直前の資料に対して変更のあった箇所のみ記述し、他は省略する。特に書名を改めた場合は、「同版（書名）」の形式で記す。

同一版式を有する資料の記述

「三字経」、特に江戸期のものは刊年不明の物が少なからずある。本解題集で定型とする書誌事項のみでは、版の異同を判別できないものについて、特に一丁表の比較の目安となる箇所について補記する。まず、本文版面について、匡廓・界線・字数・魚尾・口の書誌の記述が複数の版本において同一となるも

もある。そのうち、二種類の版が確認できたものは、書誌末尾にその版の特徴を記し、もう一方の版の番号を「↓【○】」のように載せ、参照の便をはかった。

また、三種以上の版があるものには、解題目録の後に版式ごとに画像を入れた表を附した。この表には各版における文字の特徴を明確にするために、それぞれの特徴を表す語（トメ・ハネ等）や記号を添えた。なお、冒頭の丸数字は、掲出順に附したものである。

①単辺 有界四行六字 無魚尾白口 …七種

②左右双辺 無界五行六字 無魚尾白口 …十一種

③単辺 無界五行六字 単魚尾白口 …五種

④単辺 有界五行六字 無魚尾白口 …五種

⑤左右双辺 無界五行六字 単魚尾白口 …三種

右の版種については、各版冒頭の書誌末尾に「↓表①」のように、参照すべき表を示した。

表の画像は、初版に最も近いものを載せるようにしたが、破損の有無や書影の状態によっては、後印のものをを用いたところもある。

本目録解題中の記述方法について

解題中の記号は次のように用いる。

「」……原本表記事項

〔 〕 ……補記及び推定事項

（ ） ……補足説明

〈 〉 ……複行にまたがる記事

ゝ ……出版者名が列記されている場合は冒頭と末尾のみを載せ、省略のあることを示す

判読不明文字は「□」とした。

次に、具体的な例を確認しておきたい。例としたのは、最も多い②の版式をもつ「家藏」¹³である。当該書の書名は巻首題によって定めた「三字經」であり、和刻本漢籍部『三字經』の下に配列される。この分類のもとで更に版式によって区分され、五行六字本である本書は「五行六字」以下に記事があり、更に五行六字本の中で出版年代の順に配列される。本目録解題では、資料ごとに黒丸印（●）を附し、同じ版本による刊本は【】内数字の下にまとめてある。この【】内の数字は本稿での掲出順であり、【】の中の掲載順位はおおむね出版年代に即している。例に挙げた「家藏」¹³は、【13】の四点目にあるので、参照されたい。

同版資料の記述の中で、冒頭のものには全ての書誌を記述するが、以降のものは「同版」と記し、直前の一本と異なる箇所のみの記事にとどめた。【13】を見ると、佐賀県立本には題簽がなく、東書本には題簽があることになる。「家藏」の書誌には題簽の記述がないから、直前の東書本と同様に題簽がある

ことを示している。「家藏」¹³にも題簽に関する記述はなく、直前の「家藏」にならない題簽を有することがわかる。なお、直前の一本と全て同一本の場合は、「同版」ではなく「同」の語を用い蔵書印・書入のみを載せた。

右に示したような書誌の略記を踏まえ、「家藏」¹³単独の書誌を掲げると次のようになる。ここでは、以下の解説と対応させるべく、冒頭にアルファベットを付けてある。黒丸数字は、図Iの書影と一致し、また当該書内の掲載順でもある。

〈例〉

a) ● 三字經一卷 附三字經〔傍訓〕 家藏¹³

b) 龍街漫士書 天明七年京都額田正三郎等刊明治中京都大谷津逮堂吉野屋仁兵衛後印本 全一冊

c) 左右雙邊縱十六・〇横十一・九

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

d) 首天明七年力丸之光（東山）「三字經序」³ 次「三字

經」⁴末有「龍街漫士書」⁶ 次「三字經」（十二行二十四字

傍訓）⁷

e) 封面「乾隆戊戌新鐫／三字經／姑蘇閭門内護龍街／大關帝廟北首姚清華齋藏板」上方に「啓／蒙／六／種」とあり。左方

に「皇和天明丁未新刻平安書肆額田一止人藏梓」とあり。²

f) 版心題「三字經」⁵

g) 題簽「三字經」¹

- h) 奥付「御用調進／諸書物製本處／〔京都〕大谷津逮堂／皇都書林吉野屋仁兵衛版」¹⁰
- i) 「三字経」(傍訓) 末丁裏に「皇和天明丁未新刻平安書肆額田一止人藏梓」との刊記あり。⁸
- 奥付前に明治六年書肆宣伝文一丁あり。⁹
- j) 鈐有「書學齋」

〈解説〉

a) 書名は第一巻冒頭の題名(4)によるが、無い場合は版心(5)、封面(2)の順によって定め、附録があれば「附○○」の形で示した。和刻本『三字経』には、本書のように附録として「三字経」を再び載せる例が多く見られるが、本文と異なる点を「」に附した。

所蔵機関の略号については、凡例末尾に一覧を載せた。また、各館整理番号を載せたが、整理番号未定のものは「假」の字を加えて筆者が適宜つけた番号を残した。

b) 編著者名には本姓名をとるが、本名不明のものはその限りでなく、また邦人の号は「()」内に付記し、末尾に編著関係を示す語(撰・注・書など)を示した。『三字経』は王応麟の撰とされるが、当該書に王応麟(伯厚)の名の無い場合は載せなかった。なお、唐人を挙げる場合は王朝名を冠した。

出版事項の地域名は国名・県名までとし、人名は代表者一名とする。

冊数は、完本の場合に「全」の字を冒頭につけた。

c) 第一巻一丁目の表(4)により、匡廓の形態と匡廓内の寸法、界線の有無、魚尾と口、訓点を記す。

d) 掲載順に、当該書の著録内容を列記する。「」内に巻首題を載せるが、無ければ「○○(版心)」のように括弧内に依拠した箇所を示す。また内容から判断した場合は単に(序)のように表す。巻首は記事通り、その他は出版年代と撰者名を記す。能書家などの筆者名が明らかな場合は内容表記の後に載せ、例に「末有「龍街漫士書」とあるのがそれである。

e) 封面(2)の内容をそのまま載せる。

f) 版心(5)のうち、標題の箇所のみをとり、他は略す。

g) 題簽(1)の内容をそのまま載せる。

h) 奥付(10)の内容をそのまま載せる。編著出版者に附帯された地名は適宜載せるが、国名・県名に統一する。但し、「東京府士族」「埼玉県平民」等の記載がある明治期の出版物はそちらのみを載せ、別に住所等記載があっても省略する。

i) 特記事項について載せる。例では、刊記(8)と書肆宣伝文(9)が該当する。但し、出版に関わる考察等は、次項の蔵書印の後に載せた。

j) 蔵書印があれば「鈐有」としてそれを示し、無ければ「無印」とする。

資料所蔵機関略号一覧

以下、所蔵機関名を、「略称 正式名称」の順に載せる。閲覧及び複写のご配慮いただいた各機関の皆様には、御礼申し上げます。特に、貴重な調査経験を積ませて下さった扶桑町私立教科書資料館の鈴木實氏には厚く謝意を表す次第である。

國會	国立国会図書館
内閣	国立公文書館内閣文庫
東大總	東京大学総合図書館
名古屋大	名古屋大学図書館
筑波大	筑波大学中央図書館
學藝大	東京学芸大学図書館
關大	関西大学図書館
實踐女	実践女子大学図書館
玉川大	玉川大学図書館
都立中央	東京都立中央図書館
静岡縣立	静岡県立中央図書館
佐賀縣立	佐賀県立図書館
金澤	金沢文庫
無窮會	無窮会東洋文化研究所専門図書館
三康	三康図書館
東書	東書文庫
扶桑	愛知県丹羽郡扶桑町鈴木實氏（個人）

三、目錄解題

和刻本漢籍

『三字經』

四行六字

【1】●三字經一卷 家藏20

宋王應麟撰 文化十四年江戸萬笈堂英平吉刊本 全一冊

單邊縱十九・〇横十三・二

有界四行六字 無魚尾白口 送返縱點

首「三字經（版心）」

封面「王伯厚先生纂／三字經／萬笈堂英平吉」

版心題「三字經」

題簽「三字經 全」

末丁裏に「文化丁丑冬／本石町十軒店／萬笈堂英平吉」との刊記あり。

無印

↓表①

●同版 東書 (2953-16)

文政八年江戸玉山堂山城屋佐兵衛印本 全一冊

題簽位置に「三字經」との書付あり。

奥付「文政八年乙酉九月／江戸書林玉山堂山城屋佐兵衛」首有

出版書目全十書

鈴有「東書／文庫」

【2】●三字經一卷 金澤 (1259)

文政五年刊本弘前稽古館藏版 全一冊

單邊縱十九・二横十三・四

有界四行六字 無魚尾白口 無點

首「三字經(版心)」

版心題「三字經」

題簽「三字經」

末丁裏に「文政五壬午年十月／弘前稽古館藏板」との刊記あり。

鈴有「南氏／文庫」「守田／藏書」「金澤文庫」□□

↓表①

【3】●三字經一卷 二康 (19-135)

宋王應麟撰 安政四年江戸玉山堂山城屋佐兵衛重刊本 全一冊

單邊縱十八・八横十三・二

有界四行六字 無魚尾白口 送返縱點

首「三字經(版心)」

封面「王伯厚先生纂／三字經／玉山堂」

版心題「三字經」

題簽「三字經 全」

末丁表に「安政四丁巳春再刻(日本橋通二丁目／山城屋佐兵衛)」との刊記あり。

鈴有「大橋／圖書／館印」「武田氏／圖書印」

刊記のうち、「安政四丁巳春再(再は上部まで)」が埋木であるため、安政四年以前に出版された可能性もあるが、埋木する以前のものを確認していないため、後印本とはせず、重刊本と判断しておく。

↓圖Ⅱ、↓表①

●同 家藏 3

全一冊

無印

●同 關大 (L23/A/1604)

全一冊

無印

【4】●三字經一卷 家藏 9

宋王應麟撰 安政四年江戸玉山堂山城屋佐兵衛重刊本 全一冊

單邊縱十八・九横十三・三

有界四行六字 無魚尾白口 送返縦點

首「三字經（封面）」

封面「王伯厚先生纂／三字經／玉山堂」

版心題なし

題簽「三字經 全」

末丁表に「安政四丁巳春再刻（日本橋通二丁目／山城屋佐兵衛）」との刊記あり。

無印

末丁表の刊記に埋木はなく、【3】とは別版。丁數の位置も異なる。

↓圖Ⅱ、↓表①

【5】●三字經一卷 家藏17

宋王應麟撰 安政四年江戸玉山堂山城屋佐兵衛重刊本 全一冊

單邊縱十八・七横十三・二

有界四行六字 無魚尾白口 送返縦點

首「三字經（版心）」

封面「王伯厚先生纂／三字經／東都玉山堂梓」

版心題「三字經」

題簽「三字經 全」

末丁表に「安政四丁巳春再刻（日本橋通二丁目／山城屋佐兵衛）」との刊記あり。

鈐有「咏歸堂／圖書記」

山城屋佐兵衛は【1】後印本および【3】【4】【5】【10】各

版に名があり、それぞれの出版に關わっていたことがわかる。

【1】を求板したものを文政八年に後刷りし、その後【3】

【4】【5】【10】を開雕したのである。そのうち【3】は刊

記に埋木があり、安政四年以前に出版された可能性もあるの
で、本目錄では掲載順位を先にした。また、各版封面のうち唯

一記述内容の異なる【5】を後に載せた。しかし、【3】【4】

【5】の先後關係を斷定するだけの材料を闕くため、すべて
「重刊本」とのみしておく。

↓圖Ⅱ、↓表①

【6】●三字經一卷 實踐女（山岸3553）

明治三年鹿兒島藩修本 全一冊

單邊縱二十・一横十三・六

無界四行六字 單魚尾小黑口 無點

首「三字經」

封面「明治庚午改鐫／三字經／甕島藩藏版」右上有「□／能弘

／道」朱圓印、左下有「鹿兒島／藩刊行」朱方印

版心題なし

題簽「三字經 鹿兒島藩藏版」書貼

二十一丁裏に埋木あり。

鈐有「山岸文庫」

●同 玉川大 (5032)

全一冊

題簽なし

鈐有「玉川圖書」青印、「玉川／學園／圖書」

【7】●三字經一卷 東書 (295.3-17)

明治五年都城縣小學館刊本 全一冊

單邊縱十九・七横十三・三

無界四行六字 單魚尾上小黑口下白口 送返縱點

首「三字經」

封面「明治壬申新刻／式字經／都城縣小學館」

版心題「三字經」

題簽位置に「式字經 都城縣小學館」との書付あり。

鈐有「東書／文庫」

【8】●三字經一卷 附三字經〔傍訓〕 國會 (特 42-128)

清羅浮山閣 高田義甫句讀 明治五年緒言香芸堂刊本東京協力

舍藏版 全一冊

單邊縱十八・五横十一・四

無界四行六字 單魚尾白口 返四聲點

首壬申 (明治五年) 羅浮山 (題字) 次明治五年芳波逸人「緒

言」次「三字經」末有「東園青木臧書」次「三字經」(八行

十二字 傍訓) 末題「三字經終」

封面「羅浮山雪谷閣／高田義甫句讀／唐音三字經／墨水 協力

舍藏」

版心題「三字經」

題簽「唐音三字經 完」

末丁表に「官／許」鐵線書屋藏版〈高田氏／藏版記〉／書肆

香芸堂發兌」との刊記あり。

鈐有「文部省／圖書印」「東京書籍館／明治五年／文部省創立

(圓印横書)」「明治八年文部省交付」

四聲點あり↓【9】

【9】●三字經一卷 學藝大 (TIAO-13-11)

明治六年米山堂刊本 全一冊

單邊縱十九・三横十二・九

無界四行六字 單魚尾白口 送返縱點

首「三字經」末題「三字經終」

封面「改／點」三字經 全／米山堂」

版心題「三字經」版心下部に「沖學校」とあり。

題簽「〈改／點〉三字經 全」

末丁裏に「明治六癸酉五月吉日」との刊記あり。

鈴有「東京學／藝大／學圖書」

四聲點なし→【8】

【10】●「三字經」一巻 二二康 (19-136)

宋王應麟撰 明治九年東京玉山堂山城屋稻田佐兵衛重刊本 全一冊

單邊縱十八・五横十三・一

有界四行六字 無魚尾白口 送返縱點

首「三字經(版心)」

封面「王伯厚先生纂／三字經／東都玉山堂梓」左下有「玉山堂

／稻田氏／製本記」朱印

版心題「三字經」

題簽「三字經 全」

末丁表に「明治九年五月十八日版權免許／〈出版人／兼販賣〉

東京山城屋稻田佐兵衛／發賣人〈東京山城屋稻田源吉／東京和

泉屋牧野善兵衛〉」との刊記あり。

鈴有「大橋圖／書館記」

本書は【5】と酷似する封面を持つが、別版である。

↓表①

●同 筑波大 (ル 185882)

全一冊

鈴有「石川／藏書」「乙竹氏／藏書／之印」「東京教育／大學附屬／圖書館印」

●同版 東大總 (B60-3607)

宋王應麟撰 東京文淵堂淺倉屋吉田久兵衛後印本 全一冊
封面より「玉山」を削り同所に「文淵」を埋木する。

刊記より「發賣人 東京和泉屋牧野善兵衛」を削り「讓受人 東京淺倉屋吉田久兵衛」を埋木する。

鈴有「東京帝國大學圖書／印(圓印)」「高木敦子／藏書之印」

【11】●「三字經」一巻 國會(特42124)

平井保正(枕嶺)書 明治十二年東京平井保正刊本松栢樓藏版
全一冊

單邊縱二〇・一横十三・一

有界四行六字 無魚尾白口 返點

首「三字經」末に明治十二年平井枕嶺書とあり。

封面「平井枕嶺書／習字三字經／松栢樓藏梓」

版心題「三字經」

題簽「習字三字經 全」

奥付「〈明治十二年／三月廿九日／版權免許〉〈筆者并出版東京

府士族平井保正／發兌〔東京〕矢澤龜吉〕又〔東京／書肆〕
北畠茂兵衛／山中市兵衛〕全六氏
無印

↓表①

【12】●三字經一卷 國會(特42-108)

卷菱潭書 明治十五年中外堂東京柳川梅治郎刊本 全一冊
雙邊縱十八・五橫十二・六
有界四行六字 單魚尾白口 送返縱點
首「三字經」末有「菱潭卷烹書」

封面「卷菱潭先生書／〈小學／習字〉三字經／東京書林中外堂
版」欄外上方に「版／權／免／許」とあり。

版心題「三字經」

題簽「〈小學／習字〉〈卷菱潭書／三字經〉全」

末丁裏に「明治十四年十二月十九日版權免許／同十五年一月出
版／筆者〔東京〕卷菱潭／出版人〔東京〕柳川梅治郎」との刊
記あり。末有出版書目全二書
無印

五行六字

【13】●三字經一卷 附三字經〔傍訓〕 佐賀縣立(鍋9931-189)
龍街漫士書 天明七年京都額田正三郎等刊本 全一冊
左右雙邊

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

首天明七年力丸之光(東山)「三字經序」次「三字經」末有
「龍街漫士書」次「三字經」(十二行二十四字 傍訓)

封面「乾隆戊戌新鐫／三字經／姑蘇閭門內護龍街／大關帝廟北
首姚清華齋藏板」上方に「啓／蒙／六／種」とあり。左方に
「皇和天明丁未新刻平安書肆額田一止人藏梓」とあり。

版心題「三字經」

題簽なし

奥付「天明七年丁未中秋良辰／皇都書肆額田正三郎／浪速書肆
葛城長兵衛」全四氏、首有出版書目全八書

「三字經」(傍訓)末丁裏に「皇和天明丁未新刻平安書肆額田一
止人藏梓」との刊記あり。

鈐有「水竹書房」「石龍／軒」

本書の解題は、高山節也氏より提示を受けた資料による。

本書は、封面、奥付共に備わり、また奥付の内容、刷りの具合
から判断して、同版本の中でも筆頭に舉ぐべきものである。た
だし、保存状態は非常に悪く、巻首には皺があり、正確な寸法
を計ることは困難である。版の異同を判断する際、混乱をきた
さぬよう、あえて本書には寸法を記載せず、次の後印本の項に

載せる。

↓表②

●同版 東書 (295.3-15)

京都杉本玉淵堂吉野屋甚助後印本 全一冊

左右雙邊縦十六・〇横十一・九

題簽「三字經」

奥付「京都書肆杉本玉淵堂〈京都〉吉野屋甚助／同出店」首

有出版書目全九書

鈴有「東書／文庫」□／□□□／□(圓印)

●同版 家藏

後印本 全一冊

奥付なし

無印

●同版 家藏 13

明治中京都大谷津逮堂吉野屋仁兵衛後印本 全一冊

奥付「御用調進／諸書物製本處／〈京都〉大谷津逮堂／皇都書

林吉野屋仁兵衛版」

奥付前に明治六年書肆宣傳文一丁あり。

鈴有「書學齋」

【14】●三字經一卷 附三字經〔傍訓〕 關大 (123/A/1601)

龍街漫士書 天明七年京都額田正三郎刊本 全一冊

左右雙邊縦十五・九横十二・〇

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縦點

首「三字經」末有「龍街漫士書」次「三字經」(十二行二十四

字 傍訓)

封面「乾隆戊戌新鐫／三字經／姑蘇閭門内護龍街／大關帝廟北

首姚清華齋藏板」上方に「啓／蒙／六／種」とあり。左方に

「皇和天明丁未新刻平安書肆額田一止人藏梓」とあり。

版心題「三字經」

題簽「三字經」

「三字經」(傍訓) 末丁裏に「皇和天明丁未新刻平安書肆額田一

止人藏梓」との刊記あり。

鈴有「北□」「長澤／臧□」

本書は前掲【13】と同一内容の封面及び刊記を有するが、本書

及び同版本三點全てが天明七年の序を闕く。そのため、【14】

の版種はもともと序を持たなかった可能性も考えられる。

文字は【14】の方が太く、その理由を【13】を覆刻によるもの

とすれば、序を省いての覆刻であろうか。ここでは本書を重刊

本とはせず、解題掲載順位を【13】より後にするだけに止めて

おく。

↓表②

●同版 關大 (L23/A/1608)

後印本 全一冊

封面なし (但し、封面と同版の書袋あり)

奥付なし

無印

●同版 家藏 16

後印本 全一冊

封面・書袋なし

題簽なし

無印

●同版 東大總 (B60-1924)

全一冊

題簽「三字經」

鈐有「東京帝／國大學／圖書印」「南葵／文庫」

【15】●三字經一卷 一橋大 (Aoki-143)

龍街漫士書 天明七年序刊本 全一冊

左右雙邊縱十五・七横十一・七

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

首天明七年力丸之光 (東山) 「三字經序」次「三字經」末有

「龍街漫士書」

版心題「三字經」

題簽「三字經」全

鈐有「段子／□舍」「段□／□舍」「青木／□□」

↓表②

【16】●三字經一卷 家藏 4

龍街漫士書 天明七年序寬祐舍刊本 全一冊

左右雙邊縱十五・五横十一・四

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

首天明七年力丸之光 (東山) 「三字經序」次「三字經」末有

「龍街漫士書」

封面「新刻／三字經／寬祐舍藏梓」上方に「啓／蒙／六／種」

とあり。

版心題「三字經」

題簽なし

無印

↓表②

【17】●三字經一卷 附三字經〔傍訓〕 家藏 8

龍街漫士書 天明七年序刊本 全一冊

左右雙邊縱十五・六横十一・五

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

首天明七年力丸之光（東山）「三字經序」次「三字經」末有

「竜街漫士書」次「三字經」（十二行二十四字 傍訓）

封面「新刻／三字經」上方に「啓／蒙／六／種」とあり。

版心題「三字經」

題簽「三字經 全」

無印

本書の封面及び序文と同一の記述内容を有する五行六字の多くが、本文末に「龍街漫士書」と載せている。本書の「竜街漫士書」はその誤記である可能性が高く、書者名は「龍街漫士」としておく。

↓表②

【18】●三字經一卷 附三字經〔傍訓〕 家藏18

天明七年序刊本 全一冊

單邊縱十六・九横十二・六

無界五行六字 單魚尾白口 句送返縱點

首天明七年力丸之光（東山）「三字經序」次「三字經」末題

「三字經終」次「三字經」（八行二十四字 傍訓）末題「三字

經終」

封面「三字經」

版心題「三字經」

題簽「三字經 完」

無印

本書は天明七年の序を載せるが、「龍街漫士書」との記述はない。

↓表③

【19】●三字經一卷 附三字經〔傍訓〕 家藏24

龍街漫士書 天保四年和歌山眉壽堂阪本屋大二郎刊本 全一冊

左右雙邊縱十五・七横十一・六

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

首天明七年力丸之光（東山）「三字經序」次「三字經」末有

「龍街漫士書」次「三字經」（十二行二十四字 傍訓）末題

「三字經終」

封面「新刻／三字經／眉壽堂藏梓」上方に「啓／蒙／六／種」

とあり。

版心題「三字經」

題簽「三字經 全」

奥付「天保四癸卯年夏新刻／和哥山阪本屋大二郎」

無印

↓表②

●同 名大 (375.9-R)
全一冊

鈴有「三□／名己倉／□見(圓印)」「暑屋／野□」

●同版 扶桑(假2)

後印本 一冊

傍訓箇所のうち二丁目以降闕丁。

封面より「眉壽堂藏梓」を削る。

奥付なし

題簽「三字經 全」書貼

無印

●同版 家藏 6

後印本 全一冊

題簽「三字經 全」

鈴有「洛河平」

●同 家藏 22

全一冊

無印

【20】●三字經一卷 附三字經〔傍訓〕 關大 (123/A/1605)

嘉永以前江戸柏悅堂内野屋彌平次刊本 全一冊

單邊縱十八・一横十三・一

有界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」次「三字經」(十二行二十四字 傍訓)末題「三

字經終」

封面「新刻大字素讀本／〈啓蒙／六種〉三字經 全／東都書肆

柏悅堂梓」

版心題「三字經」版心上下の匡廓を闕く。

題簽「三字經 全」

奥付「東都書肆柏悅堂内野屋彌平次梓」末有出版書目全九書

無印

↓表④

●同版 家藏 2

後印本 全一冊

題簽「三字(以下破損)」

無印

●同版 家藏 14

嘉永六年江戸榮久堂山本平吉印本 全一冊

封面なし

題簽「三字經 全」

與付「嘉永六年癸丑九月求板／江都書肆榮久堂山本平吉梓」末有出版書目全八書

無印

全一冊

鈴有「東京學／藝大／學圖書」

【22】●三字經一卷 家藏10

龍街漫士書（幕末明治初）刊本 全一冊

左右雙邊縱十六・〇横十二・〇

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」末有「龍街漫士書」

版心題「三字經」版心上下の匡廓を闕く。

題簽「三字經」

無印

國文學研究資料館所藏のマイクロフィルムによつて名古屋大學附屬圖書館神宮皇學館文庫（159・Sa）本は本書と同版と判斷される。但し、皇學館本は版心上下の匡廓を有する。それを踏まえれば、本書の出版事項は修本とするべきだろうが、皇學館本を實見していない現在のところ、ただ刊本としておく。

↓表②

封面「新刻／三字經／眉壽堂藏梓」上方に「啓／蒙／六／種」とあり。

版心題「三字經」

題簽「三字經 全」

鈴有「淺野」

↓表②

●同 關大（L23/A/6748）

全一冊

無印

【23】●三字經一卷 關大（L23/A/1602）

龍街漫士書（幕末明治初）刊本 全一冊

左右雙邊縱十五・六横十一・五

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

●同 學藝大（TIAO-13-13）

首「三字經」末有「龍街漫士書」

版心題「三字經」

題簽「三字經 全」

鈐有「蟹江／茂松」

↓表②

【24】●三字經一卷 玉川大 (5033)

中澤校訂 (幕末明治初) 刊本不厭堂藏版 全一冊

單邊縱十八・二横十三・一

有界五行六字 無魚尾白口 送返點

首「三字經」

封面「中澤先生校定／〈啓／蒙〉三字經／不厭堂藏梓」

版心題「三字經」版心下部に「不厭堂藏」とあり。版心上下

の匡廓を闕く。

題簽なし

末丁裏に刻工名「來民堂」あり。

無印

↓表④

【25】●三字經一卷 扶桑 (假1)

融和漫士書 (幕末明治初) 融和社中藏版刊本 全一冊

左右雙邊縱十七・三横十一・七

無界五行六字 單魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」末有「融和漫士書」

封面「啓蒙必讀／〈新／版〉改正三字經／融和社中藏」

版心題「三字經」版心上下の匡廓を闕く。

題簽「〈新／版〉改正三字經 全」

無印

↓表⑤

【26】●三字經一卷 東書 (2953-24)

融和漫士書 (明治中) 學校藏版刊本 全一冊

左右雙邊縱十七・一横十一・七

無界五行六字 單魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」末有「融和漫士書」

封面なし、刷表紙「童蒙必讀／〈新／版〉改正三字經／學校

藏」

版心題「三字經」版心上下の匡廓を闕く。

題簽なし

鈐有「東書／文庫」

↓表⑤

【27】●三字經一卷 筑波大 (ル185937)

融和漫士書 (明治中) 學校藏版刊本 全一冊

左右雙邊縱十七・一横十一・七

無界五行六字 單魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」末有「融和漫士書」

刷表紙「童蒙必讀／〈新／版〉改正三字經／學校藏」右上有魁星印

題簽なし

鈴有「乙竹氏／臧書／之印」「東京教育／大學附屬／圖書館印」

↓表⑤

【28】●三字經一卷 玉川大 (5031)

明治二年福井藩刊本 全一冊

單邊縱十五・九横十一・九

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」

封面「明治二己巳年冬十一月新鐫／〈訂／正〉三字經／福井藩

校内頒行本」

版心題なし

題簽「三字經（以下破損）」

無印

●同 關大 (L23/A/1607)

全一冊

封面左上「福井藩／學校印」朱印

題簽「三字經 完」

無印

【29】●三字經一卷 關大 (L23/A/1606)

塚田爲德書 明治三年以後長野凌雲堂小林常七等刊本 全一冊

單邊縱十七・一横十二・九

無界五行六字 單魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」末有「塚田爲德書」

封面「啓蒙六種／三字經／信陽書林 凌雲堂梓」

版心題「三字經」

題簽「三字經 全」

奥付「信陽書林〈向榮堂岩下伴五郎／凌雲堂小林常七〉」

鈴有「廣印□／室□□」

奥付に「高井郡中野町／凌雲堂小林常七」とあり、高井郡中野

町が成立するのは明治三年であるため、明治三年以後の出版と判断する。

↓表③

【30】●三字經一卷 國會 (特42-1074)

明治十四年東京大庭新八刊本 全一冊

單邊縱十六・九橫十二・八

無界五行六字 單魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」

版心題「三字經」

題簽「三字經」

奧付「明治十四年五月廿一日翻刻御届／同年八月二十日出版／

原版主東京府平民荒川藤兵衛／翻刻人東京府平民大庭新八」

無印

↓表③

●同版 家藏₅

後印本東京錦耕堂藏版 全一冊

封面「啓蒙六種／三字經／東京書肆錦耕堂梓」

奧付「原版主東京荒川藤兵衛」を削る。

無印

【31】●「三字經」一巻 國會(特56-920)

明治十四年東京中山正好刊本文錦堂藏版 全一冊

單邊縱十七・七橫十三・〇

有界五行六字 無魚尾白口 送返縱點

首「三字經」

封面「東京書林／三字經／文錦堂版」

版心題なし 版心上下の匡廓を闕く。

題簽「三字經 全」

奧付「明治十四年九月十四日出版御届／翻刻出版人 東京府士

族中山正好」又墨格あり。

無印

↓表④

●同版 國會(特42-107ニ)

明治十六年東京萩原新七印本松永堂藏版 全一冊

封面「東京書肆／三字經／松永堂梓」

版心題なし 版心上下の匡廓を闕く。

題簽「三字經 全」

奧付「明治十六年六月十三御届／〈翻刻／出版人〉東京府平民

萩原新七」十三は埋木。又「東京〈須原屋茂兵衛／萩原新七〉」

全九氏

鈴有「東京／圖書／館藏」

【32】●「三字經」一巻 國會(特42-107ロ)

明治十四年埼玉酒井省吾據天明七年京都額田正三郎等刊本重刊

全一冊

左右雙邊縱十七・二橫十二・九

無界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」

封面「乾隆戊戌新鐫／三字經／清華齋藏」上方に「啓／蒙／六／種」とあり。

版心題「校正三字經」

題簽「三字經 全」

奥付「明治十四年十一月十五日翻刻御届／全年十二月出版／原版者吉野屋甚助／翻刻人埼玉縣酒井省吾／發兌人埼玉小野修三／同埼玉長島爲一郎／同埼玉金子彌吉」

無印

封面の記述によれば、本書は乾隆四十三年清華齋刊本の重刊本である。しかし、清華齋本にはなく天明七年京都額田正三郎等刊本にある「啓蒙六種」の語句があるため、清華齋本を底本にした天明七年刊本の重刊本と判断する。

↓②

【33】●三字經一卷 附三字經〔傍訓〕 國會（特42-107ハ）

宋王應麟撰 高木弘平訓點 明治十五年埼玉盛化堂長島爲一郎

刊本 全一冊

單邊縱十六・六横十二・八

無界五行六字 單魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」次「三字經」（十一行二十六字 傍訓）

封面「王伯厚纂／三字經 全／書林盛化堂藏版」

版心題「三字經」

題簽「三字經 全」

奥付「明治十五年三月二十一日出版御届／同年四月十五日刻成／訓點者岡山縣士族高木弘平／出版人武州長島爲一郎／發兌人東京榊原友吉」

無印

↓表③

●同 學藝大（TIAO-13-15）

全一冊

鈐有「東京學／藝大／學圖書」

【34】●三字經一卷 國會（特42-107キ）

宋王應麟撰 高木熊三郎點 明治十六年大阪群玉堂岡田茂兵衛

修本 全一冊

單邊縱十五・四横十二・〇

無界五行六字 單魚尾白口 眉注 句返點

首「三字經」（宋王伯厚著／日本高木熊三郎點）（宋王伯厚著／日本高木熊三郎點）は埋木。

封面「宋王伯厚著／日本高木熊三郎校點／三字經 全／大阪書

林岡田群玉堂」

版心題「三字經」

題簽「三字經」(宋王伯厚先生著／日本高木熊三郎點)全」
 奥付「明治十六年九月十五日出版御届／同十月十五日出版／點
 者大阪府平民高木熊三郎／出版人「大阪府平民」岡田茂兵衛」
 鈐有「東京／圖書／館藏」

↓表③

●同版 關大(201124271)
 大阪嵩山堂青木恒三郎後印本 全一冊
 封面なし
 奥付「和漢洋書籍出版所／發行者大阪青木恒三郎／製本發賣所
 大阪嵩山堂本店／全東京嵩山堂支店／全「三重」嵩山堂分店」
 鈐有「實□／即現／臧印」「太田」

【35】●「三字經」一巻 東大總(B40-1245)
 津田鎗藏訓點 明治十六年千葉停雲館茂木房五郎刊本 全一冊
 單邊縱十八・五横十三・七
 有界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點
 首「三字經」
 封面「校訂訓點／三字經／總陽河東停雲館梓行」上部に「明治
 甲申年發行」、校訂訓點下部に「千里／必究」とあり。
 版心題「三字經」 版心上下の匡廓を闕く。
 題簽「校訂／訓點」三字經 全」

末丁裏に「明治十六年十二月十日御届／訓點者東京府士族津
 田鎗藏」出版人千葉縣平民茂木房五郎」との刊記あり。
 鈐有「東京帝／國大學／圖書印」

↓表④

【36】●「三字經」一巻 附三字經(傍訓) 國會(特42-107ハ)
 宋王應麟撰 高木弘平訓點 高木春園書 明治十七年東京高橋
 定吉刊本清光堂藏版 全一冊
 單邊縱十六・七横十二・四
 有界五行六字 單魚尾白口 送返縱點
 首「三字經」末有「高木春園書」次「三字經」(十一行二十五
 字 傍訓)
 封面「王伯厚纂／三字經 全／東京書肆清光堂藏版」
 版心題「三字經」
 題簽「三字經 全」
 奥付「明治十七年八月廿八日御届／同年九月十五日出版／訓點
 人岡山縣士族高木弘平／出版人東京府平民高橋定吉／發兌人同
 北澤伊八／賣捌館埼玉須原屋支店」
 鈐有「東京／圖書／館藏」
 【37】●「三字經」一巻 附三字經(傍訓) 國會(特42-109)
 佐佐木邦次朗訓點 東園隆書 明治十八年東京佐佐木邦次朗刊

本 全一冊

單邊縱十八・七横十三・七

有界五行六字 無魚尾白口 句送返縱點

首「三字經」末有「東園隆書」次「三字經」(十六行三十六字

傍訓)末題「三字經終」

封面「佐佐木邦次朗訓點」〈訂／正〉三字經／東京書肆廣文堂

發兌」左下有「安田／氏記」朱印

版心題「三字經」版心上下の匡廓を闕く。

題簽「〈訂／正〉三字經 佐佐木邦次朗訓點 全」

奥付「明治十六年十一月廿日出版御届／全十八年三月出版／

〈訓點兼／出版人〉東京府平民佐佐木邦次朗／發兌人東京府平

民安田恒太郎」

↓表④

●同版(闕三字經〔傍訓〕) 全一冊 東大總(B60-1504)

全一冊

鈐有「島田氏雙／桂樓收臧」「南葵／文庫」「東京帝／國大學／

圖書印」

五行九字

【38】●三字經 國會(特44-432)

高橋豐珪(石齋)書 明治中東京山城屋稻田佐兵衛等刊本

單邊縱二十二・〇横十三・五

有界五行九字 無魚尾白口 送返縱點

首「三字經」

封面「石齋高橋先生書」〈大字／校正〉三字經／江都書林山城

屋佐兵衛」

版心題「三字經」

題簽「〈大字／校正〉三字經」

奥付「京都勝村治右衛門」(東京)稻田佐兵衛」全九氏 上方

に「三／都／書／林」とあり。

鈐有「文部省／圖書館」「文部省／書庫」以上に「文部省／書

庫消／印之證」押印あり。「東京／圖書／館臧」

奥付に「東京日本橋通一丁目／北畠茂兵衛」との記述があるた

め、明治中の出版と判斷する。

奥付は【41】三康(19-138)と別版であるが、記載内容は全て

一致している。

傍訓なし→【39】

【39】●三字經 家藏21

明治中東京保永堂刊本

單邊縱十八・五横十三・六

有界五行九字 無魚尾白口 傍訓 送返縦點

首「三字經」

封面「新刻平假名素讀本／〈啓蒙／六種〉三字經 全／東京書

肆保永堂發兌」

版心題「三字經」 版心上下の匡廓を闕く。

題簽「三字經 平假名附 全」

鈐有「泰／□」

傍訓あり↓【38】

六行六字

【40】●三字經一卷 家藏」

嘉永四年大阪藤屋九兵衛重刊本 全一冊

雙邊縦十七・七横十三・〇

有界六行六字 單魚尾白口 無點

首「三字經」

版心題「三字經」

題簽「三字經 完」

奥付「嘉永四年亥初秋再補／浪花書肆大阪藤屋九兵衛梓」とあり。

無印

奥付に「再補」とあるが、埋木等は見られず、修本かは不明であるため、重刊本としておく。

【41】●三字經一卷 内閣 (299.26)

宋王應麟撰 札幹暢（愛蘭）書 嘉永六年序愛蘭居刊本 全一冊

單邊縦十八・一横十二・八

有界六行六字 單魚尾白口 返點

首嘉永六年小野卷（横山湖山）「敍」次「三字經」次嘉永癸丑（六年）札幹暢「跋（版心）」

封面「王伯厚先生纂／三字經／愛蘭居藏梓」一行目下部に「愛蘭居／圖書印」の刷りあり。

版心題「三字經」

題簽「〈新／刻〉正書三字經 全」

鈐有「昌平坂／學問館」「嘉永壬子」

●同版 附三字經「傍訓」 二康 (191.38)

明治中東京稻田佐兵衛等後印本 全一冊

首「三字經」次「三字經」（十二行二十四字 傍訓）末題「三字經終」

題簽位置に「三字經」との書付あり。

奥付「京都勝村治右衛門（東京）稻田佐兵衛」全九氏 上部

に「三／都／書／林」とあり。参照→【38】
 鈴有「大橋／圖書／館印」

【42】●三字經一卷 静岡縣立(159-90-復1)

慶應四年文林堂刊本静岡本屋市藏藏版 全一冊

單邊縱十八・一横十二・七

有界六行六字 單魚尾白口 送返點

首「三字經」

封面「千里必究／三字經正文全／文林堂」

版心題「三字經」

題簽「三字經正文 全」

奧付「慶應四年歲在丙辰／春三月／駿州静岡江川町／本屋市藏板」

鈴有「駿州／喜 西十谷／菴原(圓印)」「喜 西十谷之收」

「□□／藏書」

●同 静岡縣立(159-90-〔庫〕特)

全一冊

鈴有「静岡縣立／葵文庫／藏書之印」

【43】●三字經一卷 國會(特43-286)

三宅道明訓點 明治十五年埼玉松濤軒酒井省吾刊本 全一冊

單邊縱(十五・一、十二・三) 横九・八(兩層)

有界六行六字 單魚尾上白口下小黑口 傍訓 送返縱點

首尹致昊(題字) 次「三字經(版心)」

封面「三宅道明訓點／三字經 假名付 全／〈明治十五年／一月刻成〉酒井松濤軒藏」

版心題「三字經」

題簽「三字經 三宅道明訓點 全」

奧付「明治十四年十一月卅日出版御届／同十五年一月日刻成出版／訓點人東京府士族三宅道明／出版人埼玉縣平民埼玉酒井省吾／發兌人東京府平民高橋源助」酒井省吾下部有「松／萬堂」印

無印

六行九字

【44】●三字經一卷 國會(特41-406)

宋王應麟撰 吉田徹三譯 青木輔清閱 明治十四年東京永井俊

次郎刊本 全一冊

雙邊縱十三・〇横八・八

有界六行九字 無魚尾白口 傍訓 返縱點

首明治十四年青木輔清「三字經譯語緒言」 次「三字經(宋王

伯厚撰／皇京吉田徹三譯」末題「三字經止」

封面「炎宋王伯厚原撰／皇都〈青木輔清閱／吉田徹三譯〉／三字經譯語／出版御届〈明治十四年／十二月十日〉文榮堂發兌」

版心題「三字經」 版心上部に「譯語」とあり。

題簽「三字經譯語〈青木輔清閱／吉田徹三譯〉全」

奥付「出版御届〈明治十四年十二月／同年同月出版〉／編者東京府平民吉田徹三／出版人東京府平民永井俊次郎／發兌人埼玉縣平民岸田文吉」

無印

六行十二字

【45】●三字經一卷 附讀法略解 國會(特43265)

明治五年附錄刊本長野集義堂藏版 全一冊

單邊縱十五・〇横一〇・六

無界六行十二字 單魚尾白口 送返縱點

首「三字經」 次明治五年集義堂主人「讀法略解」

封面「官許／〈讀法／略解〉三字經／信濃上田集義堂藏梓」

版心題「三字經」

題簽「〈讀法／略解〉三字經 全」

鈐有「東京府／書籍館／藏書印」「文部省／圖書印」

●同 家藏

全一冊

無印

明清注釋書

【46】●新鐫三字經註解一卷 玉川大(210)

明陳翰撰 明曆四年京都婦屋林傳左衛門刊本 全一冊

單邊縱二十・四横十四・九

無界六行字數不定注文小字雙行十六字相當 雙魚尾白口 返縱

點

首「新鐫三字經註解／福建辰城陳翰迅成」末題「三字經註解終」

版心題「三字經」

題簽位置に「新鐫三字經註解」との墨書あり。

末丁裏に「明曆四戊戌歲／三條通菱屋町／婦屋林傳左衛門」との木記あり。

鈐有「玉川／學園／圖書」「玉川圖書」「南宗／宮□(圓印)」

●同 内閣(299-27)

全一冊

題簽「新鐫三字經註解 全」書貼

鈴有「淺草文庫」「大學／藏書」「日本／政府／圖書」

【47】●三字經訓詁一卷 内閣 (209-28)

清王相注 徐士業校 天保二年昌平坂學問所據康熙五年序歛西

徐氏刊本重刊 全一冊

左右雙邊縱十八・六橫十三・一

有界四行六字 單魚尾白口 句返四聲點

首「三字經訓詁／歛西徐士業建勳氏校刊」卷首有康熙丙午（五

年）王相（序）

版心題「三字經訓詁」

題簽「〈官／板〉三字經訓詁」

卷末に「天保二年刊」との刊記あり。

鈴有「昌平坂／學問所」「淺草文庫」「日本／政府／圖書」「天

保辛卯」「安政戊午」

●同 内閣 (209-25)

全一冊

鈴有「昌平坂／學問所」「淺草文庫」

●同 關大 (L23/A/6771)

全一冊

鈴有「井上圖／書記」

●同 關大 (L21/1/307)

全一冊

無印

準漢籍

三行四字

【48】●眞書三字經一卷 附眞書三字經〔傍訓〕 國會（特

42125）

卷菱潭書 附錄潭舟釣書 明治七年東京鈴木忠藏刊本書學教館

藏版 全一冊

單邊縱十八・四橫十二・六

有界三行四字 單魚尾白口 無點

首「眞書三字／經／王伯厚撰」末に明治八年卷菱潭とあり。

次「眞書三字經 王伯厚撰」（八行十二字 傍訓）末有「門

生潭舟釣徒書」

封面「卷菱潭書／眞書三字經／書學教館藏」

版心題「三字經」 版心上下の匡廓を闕く。

題簽「卷菱潭書／眞書三字經 完」

奥付「官許明治七年十二月／書學教館藏／東京書林鈴木忠藏
〈發／兌〉」

鈐有「東京府／書籍館／藏書印」「東京書籍館／明治五年／文
部省創立（圓印横書）」「明治九年圖書寮交付」

三行六字

【49】●習字捷徑三字經一卷 國會（特56-51）

伊藤信平（桂洲）書 明治六年刊本天香書屋藏版 全一冊

雙邊縱二十・七橫十三・一

無界三行六字 無魚尾白口 無點

首「習字捷徑三字經（封面）」末に明治六年伊藤桂洲とあり。

封面「桂洲先生書／〈習字／捷徑〉三字經／天香書屋藏版」

版心題なし

題簽「〈訓／蒙〉草行三字經 全」

卷末に刻工名「朝倉吉之助」あり。

鈐有「書籍／館印」「東京府／書籍館／藏書印」「文部省／圖書
印」「東京書籍館／明治五年／文部省創立（圓印横書）」「明治
八年文部省交付」

四行六字

【50】●增訂三字經一卷 附增訂三字經釋文（傍訓） 國會
（特42-114）

内田嘉一（晉齋）書 釋文青木理中（東園）書 明治七年萬蘊
堂刊本 全一冊

單邊縱十七・八橫十三・二

有界四行六字 無魚尾白口 無點

首（題字）藍印 次甲戌（明治七年）内田嘉一（序）次「增
訂三字經」末有「二五三三年冬晉齋書」次「增訂三字經釋
文」（九行十五字 傍訓）末有「明治七年第六月青木東園主人
書」

封面「内田晉齋書／增訂三字經／〈明治七年／六月新鐫〉萬蘊
堂發兌」

版心題「三字經」 版心上部に「增訂」とあり。

題簽「增訂三字經 完」

釋文末丁に刻工名「瀧澤義之吉」あり。

鈐有「東京府／書籍館／藏書印」「文部省／圖書印」

【51】●假字繪入三字經讀本一卷 國會（特42-118）

増田長寛訓點 本多徴（董邨）書 明治十三年東京島村利助刊
本英蘭堂藏版 全一冊

雙邊縱（十九・三、十四・五）横十二・〇（兩層）

有界四行六字 單魚尾白口 全相 傍訓 返點

首（題字） 次「〈假字／繪入〉三字經讀本」末有「應需董邨本多徴書」

封面「増田長寛訓點／〈假字／繪入〉三字經讀本／英蘭堂藏版」右上有「馨春／□禺」朱圓印、左下有「英蘭／堂記」朱方印

版心題「三字經読本」版心下部に「英蘭堂藏版」とあり。

題簽「〈假字／繪入〉増田長寛訓點／三字經讀本」改新點全

奥付「明治十三年九月二十日出版御届／同 同年十月刻成發賣

／（出版書目一書）／訓點人「東京」増田長寛／出版人「東京」島村利助」

鈐有「東京圖／書館藏／書之印」

【52】●標註増補三字經一卷 國會（特42115）

原亮策編 明治十七年東京金港堂原亮三郎刊本 全一冊

雙邊縱十七・一横十一・九

有界四行六字 單魚尾白口 送返縱點

首「〈標／註〉増補三字經／王伯厚先生原本 原亮策編纂」末

題「〈標／註〉増補三字經終」

封面「原亮策編纂／〈標／註〉増補三字經／東京金港堂藏版」

版心題「〈標／註〉増補三字經」版心下部に「金港堂梓」とあり。

題簽「〈標／註〉増補三字經 原亮策編纂 全」

末丁表に「明治十七年／一月三十一日／板權免許／全十七年／三月出版」又「編纂人東京府士族原亮策／出版人「東京府士族」原亮三郎／賣捌所「東京大坂／兵庫岐阜」金港堂」との刊記あり。原亮三郎下部有「金港堂／發兌證」朱印
鈐有「東京／圖書／館藏」

四行九字

【53】●眞書三字經一卷 附三字經「傍訓」 國會（特56548）

伊藤信平（桂洲）書 明治十一年埼玉盛化堂長島爲一郎刊本
全一冊

單邊縱二十二・八横十二・一

無界四行九字 單魚尾白口 無點

首「眞書三字經」末に明治十一年伊藤信平とあり。 次「三字

經」（十行三十字 傍訓）末題「三字經終」

封面「桂洲伊藤先生書／眞書三字經／鴻巢 盛化堂梓」

版心題「三字經」 版心下部に「盛化堂藏」とあり。

題簽「眞書三字經 伊藤信平書 全」

奥付「明治十一年七月十日版權免許／同七月出版／筆者東京府士族久昭兄伊藤信平／出版人埼玉縣平民長島爲一郎／發兌人東京府平民水野慶次郎」

無印

五行六字

【54】●標註「三字經」一卷 都立中央(特6535)

日本諸葛彝標註 明治十五年刊本埼玉縣藏版 全一冊

單邊縱(二十一・五 十五・四) 橫十三・六(兩層)

有界五行六字 單魚尾白口 送返縱點

首明治十四年諸葛彝「標註三字經序」次「〈標／註〉三字經／

〈宋王應麟纂／日本諸葛彝標註〉末題「標註三字經終」

封面「宋王應麟纂／日本諸葛彝標註／〈標／註〉三字經／埼玉

縣藏版」左上有「埼玉縣／藏版章」印

版心題「三字經」 版心上部に「標註」、版心下部に「埼玉縣藏版」とあり。

題簽「〈標／註〉三字經 完」

奥付「明治十五年三月三日版權屆／同年四月八日出版」埼玉

縣藏版／發兌書林東京府平民吉川半七／賣弘書林(東京府平民) 山中市兵衛／同「埼玉縣平民」長島爲一郎」吉川半七下部有「吉川氏／製本記」朱印
鈐有「松井／文庫」「東京都立／日比谷圖書／館藏書」「日比谷圖書館」「清水文庫」

【55】●校正三字經一卷 家藏12

明治十五年以前刊本 全一冊

左右雙邊縱十七・八橫十三・一

有界五行六字 無魚尾白口 句送返點

首「校正三字經」末題「校字經終」

版心題「校正三字經」

題簽「校正三字經 宋 全」

無印

●同版 國會(特42113)

渡邊音吉訓點 明治十五年愛媛渡邊音吉修本 全一冊

首「校正三字經」末題「三字經終」

題簽「校正三字經 全」

奥付「明治十五年四月五日出版御屆／同四月刻成／編纂人古人

宋伯厚／〈訓點兼／出版人〉愛媛縣平民渡邊音吉」

無印

末題に埋木があるため、修本とする。

【56】●頭書問目三字經一卷 國會(特56547)

淺塾定治註 明治十五年鹿兒島青木靜左衛門刊本 全一冊

左右雙邊縱十七・二横十三・〇

有界五行六字 無魚尾白口 眉注 句送返點

首「〔頭書／問目〕三字經」

版心題なし

題簽〔頭書／問目〕簡所に「標註」と墨書した紙を貼付する。

奥付「明治十五年五月十五日御届／同年同月廿二日出板」五月十五日御届は初めに切抜き、裏面から貼紙した上に墨書したものの。又「頭書問目者大分縣士族淺塾定治／出版者鹿兒島縣平民青木靜左エ門」、又墨格あり。

無印

●同版(三字經一卷) 全一冊 國會(特42110假1)

明治十五年鹿兒島青木靜左衛門修本 全一冊

左右雙邊縱(十九・七、十七・三) 横十三・〇(兩層)

有界五行六字 無魚尾白口 句送返點

首「三字經」三字經(埋木)

題簽「頭書／問目」との刷りの上に、「標註」と墨書した紙を貼付する。

題簽「〔頭書／問目〕三字經」

奥付「明治十五年七月三日御届／同年同月出板」七・三日・

同(月)は墨書、廿二日を削る。又「頭書問目者大分縣士族淺塾定治／出版者鹿兒島青木靜左エ門」頭書問目との刷りの上に「標註」と墨書した紙を貼付する。又墨格を「賣捌書林 鹿兒島吉田孝兵衛／琉球和泉屋支店」全三十二氏に改める。十七・十八丁は、匡廓上部に繼目無く、新たに刻したものである。

鈴有「東京圖／書館藏／書之印」

冠稱を除き『三字經』に改題を行っているため、本書は漢籍であるが、初印に従いここに分類する。

●同版(三字經一卷) 全一冊 國會(特42110假2)

明治十五年鹿兒島青木靜左衛門修本 全一冊

左右雙邊十七・二横十三・〇

有界五行六字 無魚尾白口 句送返點

題簽「〔校／正〕三字經 全」

奥付「明治十五年七月十一日御届／同年八月五日出板」七・十一日・八・五は墨書。又「頭書問目者」を削り「訓點者」と墨書する。

無印

兩層部分を削った修本。

↓表④

【57】●箋註三字經校本一卷 内閣 (299.23)

小笠原寛箋註 明治十七年大阪松雲堂鹿田靜七刊本 全一冊

單邊縱(十八・三 十六・八 十二・五) 横十二・六 (三層)

有界五行六字 無魚尾白口 送返縱點

首明治甲申(十七年)五十川淵「序」次「箋註三字經校本／

〈宋王伯厚編纂／日本小笠原寛箋註〉

封面「宋王伯厚編纂／日本小笠原寛箋註／箋註三字經校本／大

坂松雲堂藏」

版心題「箋註三字經校本」版心上部に「集疏」とあり。

題簽「箋註三字經校本 小笠原寛箋註」

奥付「明治十七年三月二十七日版權免許／同年七月出版／

箋註者大坂府平民小笠原治平／出版人大坂府平民鹿田靜七／發

兌人大坂府平民柏原政次朗／全京都府平民杉本甚助」

鈐有「日本／政府／圖書」

五行十二字

【58】●三字經集註一卷 内閣 (191.369)

渥美正幹(担庵)註 明治十六年東京讀書有味齋渥美正幹刊本

全一冊

單邊縱十七・九横十一・三

有界五行十二字 單魚尾白口 句送返點

首明治癸未(十六年)依田百川「三字經集註序」次明治十五

年渥美正幹「序」次渥美正幹「例言」次「三字經集註／宋王

應麟伯厚纂述 日本渥美正幹貞卿集註」末題「三字經集註終」

次明治十六年渥美正幹「小傳」

封面「宋王應麟纂／日本渥美正幹註／三字經集註／版權免許

讀書有味齋藏」編著者名下部有「不許翻刻」、讀書有味齋藏下

部有「渥美／氏之記」朱印

版心題「三字經集註」

題簽「三字經集註 全」

奥付「明治十五年六月五日出版々權願／同十五年七月廿九日版

權免許／同十六年三月日刻成／著述并出版人東京府平民渥美正

幹／發兌人「東京」府平民吉川半七」著述との刷りの上に、

「集註」と印字した紙を貼付する。渥美正幹下部有「渥美／氏

之記」朱印

鈐有「太政／官記／録印」

●同 國會(特42.117)

全一冊

鈐有「東京／書籍／館藏」

●同 都立中央(特 6556)
全一冊
奥付「集註」の紙なし。
鈴有「日比谷圖書館」「東京都立／日比谷圖書／館藏書」「坂本文庫」

●同 玉川大(5035)
全一冊
無印

●同 金澤(125-10)
全一冊
鈴有「金澤／文庫」

●同 關大(123/A/1609)
全一冊
無印

六行九字

【59】●校正三字經一卷 國會(特 42-111)

小石碌郎訓點 明治十五年京都津逮堂大谷仁兵衛刊本 全一冊
單邊縱十七・〇横十一・八
有界六行九字 無魚尾白口 句送返縱點
首「校正三字經」末題「終」
封面「小石碌郎訓點／〈校／正〉三字經／京都書林大谷津逮堂藏」

版心題「校正三字經」
題簽「〈校／正〉三字經 全」

奥付「明治十五年三月三十日出版御届／同年四月刻成發兌／訓點者京都府平民小石碌郎／出版人「京都府平民」大谷仁兵衛／發賣人鹿兒島縣平民吉田孝兵衛」
無印

和語註解本

【60】●三字經訓詁解一卷 都立中央(特 6557)

井後鳴鶴譯 寛政十三年京都額田正三郎等刊本
單邊縱二十・八横十六・四
無界五行相當六字 和語注解小字三行字數不定 有圖 無魚尾白口 送返縱點

首(圖) 次寛政戊午(十年) 廣瀬典「三字經訓詁解序」 次寛政十二年森緹女(序) 次寛政八年(序) 次「三字經訓詁解(封面)」 次寛政戊午(十年) 隆維龍(鶴山)「三字經訓詁解後序」

封面「王伯厚纂／王晉升注」 井後鳴鶴譯／三字經訓詁解／平安書肆「水玉堂／一止人」 左下有「水玉／堂／印記」 朱印 版心題なし

題簽「三字經訓詁解」 書貼

奥付「寛政十三年辛酉正月吉旦／平安書肆「葛西市郎兵衛／額田正三郎」」

鈴有「東京都／立圖書／館藏書」「中山文庫」

●同 關大 (L23/A/1610)

全一冊

鈴有「□香／□□」

●同 玉川大 (5034)

全一冊

鈴有「玉川／學園／圖書」「玉川圖書」

【61】●三字經抄 一巻 無窮會 (ナ-6742)

高井伴寛(蘭山)撰 文化十二年江戸萬笈堂英平吉郎等刊本

全一冊

單邊縱十九・〇横十三・九

有界六行十二字 和語注解小字雙行字數不定 單魚尾白口 眉

注 傍訓 返點

首文化八年高井伴寛(蘭山)「敘」 次「三字經抄 東武高井伴寛思明述」

封面「高井蘭山先生著 書肆萬笈堂梓／「經典／餘師」三字經之部／(書肆宣傳文)」

版心題「三字經抄」

題簽「(破損) 完」

末丁裏に「文化十二乙亥春新刻／下谷黒門町花屋久次郎／本石町十軒店英平吉郎」との刊記あり。

鈴有「織田／氏圖／書記」「無窮會／神習文庫」

●同版 筑波大 (P805-144)

後印本 全一冊

題簽「「經典／餘師」三字經之部 完」

鈴有「勝／菴」「東京教育大學／藏書印／和書／附屬圖書館(圓印横書)」

●同版 學藝大 (TIAO-13-12)

嘉永七年江戸甘泉堂和泉屋市兵衛修本 全一冊

封面「萬菱」を削り「甘泉」を埋木する。

卷末に「文化十二乙亥春新刻／嘉永七甲寅復求板／甘泉堂芝明神前和泉屋市兵衛」との刊記あり。

鈐有「東京學／藝大／學圖書」

刊記を有する末丁のみ、版木を改める。

●同版 家藏 19

後印本 全一冊

封面なし

無印

●同版 玉川大 (5036)

後印本 全一冊

「敍」を闕く。

鈐有「玉川／學園／圖書」「玉川圖書」

【62】●三字經國字解 一卷 關大 (20285891)

多賀主一郎解 文政二年大阪吉田善藏等刊本 全一冊

左右雙邊縱十八・四横十二・九

有界八行字數不定 和語注解小字雙行字數不定 無魚尾白口

眉注 送返點

首享和元年陸可彦「序」次「三字經國字解／長門多賀主一郎

解」末題「三字經國字解」次享和元年陸祐吉「跋」

封面「長州多賀先生解／三字經國字解／（書肆宣傳文）」

版心題「三字經國字解」

題簽「三字經國字解 全」書貼

奥付「文政二年己卯正月／書林〈京都額田正三郎〉〔大阪〕吉

田善藏」全四氏

無印

●同版 無窮會 (4-6738)

後印本 全一冊

封面なし

題簽「三字經國字解 全」

鈐有「石川藏書」「織田／氏圖／書記」「無窮會／神習文庫」

【63】●三字經〔即三字經童子訓〕一卷 東書 (2953-18-1)

額田正三郎（一止人）集釋 井上春曙齋畫 池田正韶（東籬）

関 天保十二年京都雙額堂正三郎等三色套印本 全一冊

單邊縱（十七・五 十三・一）横十二・五（兩層）

有界六行九字 和語注解小字雙行字數不定 有圖 單魚尾白口

句送返縱點

首（圖）次辛丑（天保十二）内瀬逸人「三字經和訓圖解序」

次「三字經」末題「三字經畢」

封面「池田東籬主人閱／田一止人集釋／井上春曙齋畫／〈餘／師〉三字經童子訓／（書肆宣傳文）」

版心題「三字經抄」

題簽「〈餘／師〉三字經童子訓」藍印

奥付「（書肆宣傳文）／天保十二年辛丑初春／東武須原屋茂兵

衛／皇都額田正三郎」全七氏

末丁裏圖中に「京雙額堂／正三郎板元」の木記、書肆宣傳文あり。

鈐有「東書／文庫」

●同版 家藏15

二色套印本 全一冊

題簽なし

奥付の「十二年辛丑」に破損あり。

無印

●同版 東書 (295.3.18.2)

明治中京都本屋文祐等後印本 全一冊

「三字經和訓圖解序」を闕く。

題簽「〈餘／師〉三字經童子訓 全」

奥付「〈發兌／書肆〉東京岡田嘉七／〔京都〕本屋文祐」全十

二氏 書肆のうち藤岡屋慶次郎の「岡」のみ草書に作る。

鈐有「東書／文庫」

墨刷本

●同版 學藝大 (TIAO-13-17)

後印本 全一冊

奥付書肆のうち藤岡屋慶次郎の「岡」のみ埋木して楷書に改める。

鈐有「東京學／藝大／學圖書」「記／洵」「新川／喜印（圓印）」

●同版 筑波大 (N185／乙竹466)

明治中京都竹岡文祐後印本 全一冊

奥付「萬國書籍仕入所／〈京都／書林〉竹岡文祐」

鈐有「大石／藏書」「乙竹氏／藏書／之印」

【64】●三字經〔即幼學三字經〕一卷 學藝大 (TIAO-13-14)

山田西京註解 明治五年大阪群玉堂岡田茂兵衛等刊本 全一冊

單邊縱（十四・一九・七）橫九・七（兩層）

有界六行字數不定 和語注解小字雙行 有圖 單魚尾白口 送

返點

首好花堂「幼學三字經序」次「三字經」末題「三字經畢」

封面「〈宋王伯厚先生遺訓／日本西京山田先生註解〉全壹冊／

〈童蒙／必讀〉三字經講釋／大坂書林岡田群玉堂」

版心題「幼學三字經」

題簽「〈童蒙／必讀〉三字經講釋 全」

奥付「〔出版書目一書〕／明治五壬申年刻成／東京書林北畠茂

兵衛／西京書林川勝徳次郎／大坂岡田茂兵衛」

鈴有「東京學／藝大／學圖書」「山巖」「男□／艸大（圓印）」

●同版 東書 (295.3-19)

大阪群玉堂岡田茂兵衛等後修本 全一冊

有眉注

奥付「〈發兌／書肆〉北畠茂兵衛／大阪岡田茂兵衛」全十氏

鈴有「東書／文庫」

本文上層の圖に「桃園會」などと埋木して眉注を加えたもの。

●同版 無窮會 (チ-6737)

大阪嵩山堂青木恒三郎後印本 全一冊

封面「岡田群玉堂」を削り「青木嵩山堂」を埋木する。

奥付「和漢洋書籍發兌處／發行印刷者大坂青木恒三郎／製本發

賣所東京青木嵩山堂／全大阪青木嵩山堂／賣捌所勢州嵩山堂支

店」

鈴有「織田／氏圖／書記」「無窮會／神習文庫」「中島」

【65】●三字經略解一巻 學藝大 (TIAO-13-16)

堀中徹藏（東洲）編輯 明治十七年埼玉盛化堂長島爲一郎刊本

全一冊

單邊縱（十八・六 十五・九）横十二・二（兩層）

有界九行十六字相當 注文小字雙行三十二字 單魚尾白口 返

點

首甲申（明治十七年）香巒□□（題字） 次「三字經略解／東

京堀中徹藏著」末題「三字經略解終」

封面「堀中東洲先生編輯／三字經略解／埼玉書肆盛化堂藏版」

上方に「明治十七年二月新刻」とあり。

版心題「三字經略解」版心下部に「盛化堂藏」とあり。

題簽「三字經略解 堀中東洲編 全」

奥付「版權免許〈明治十六年九月十日／明治十七年二月出版〉

／編輯人東京府士族堀中徹藏／出版人埼玉縣平民長島爲一郎／

發兌人東京府平民榊原友吉」又奥付裏至裏表紙見返「東京稻田

佐兵衛／埼玉多ヶ谷作右衛門」全七十八氏

鈴有「東京學／藝大／學圖書」

●同 三康 (19-137)

全一冊

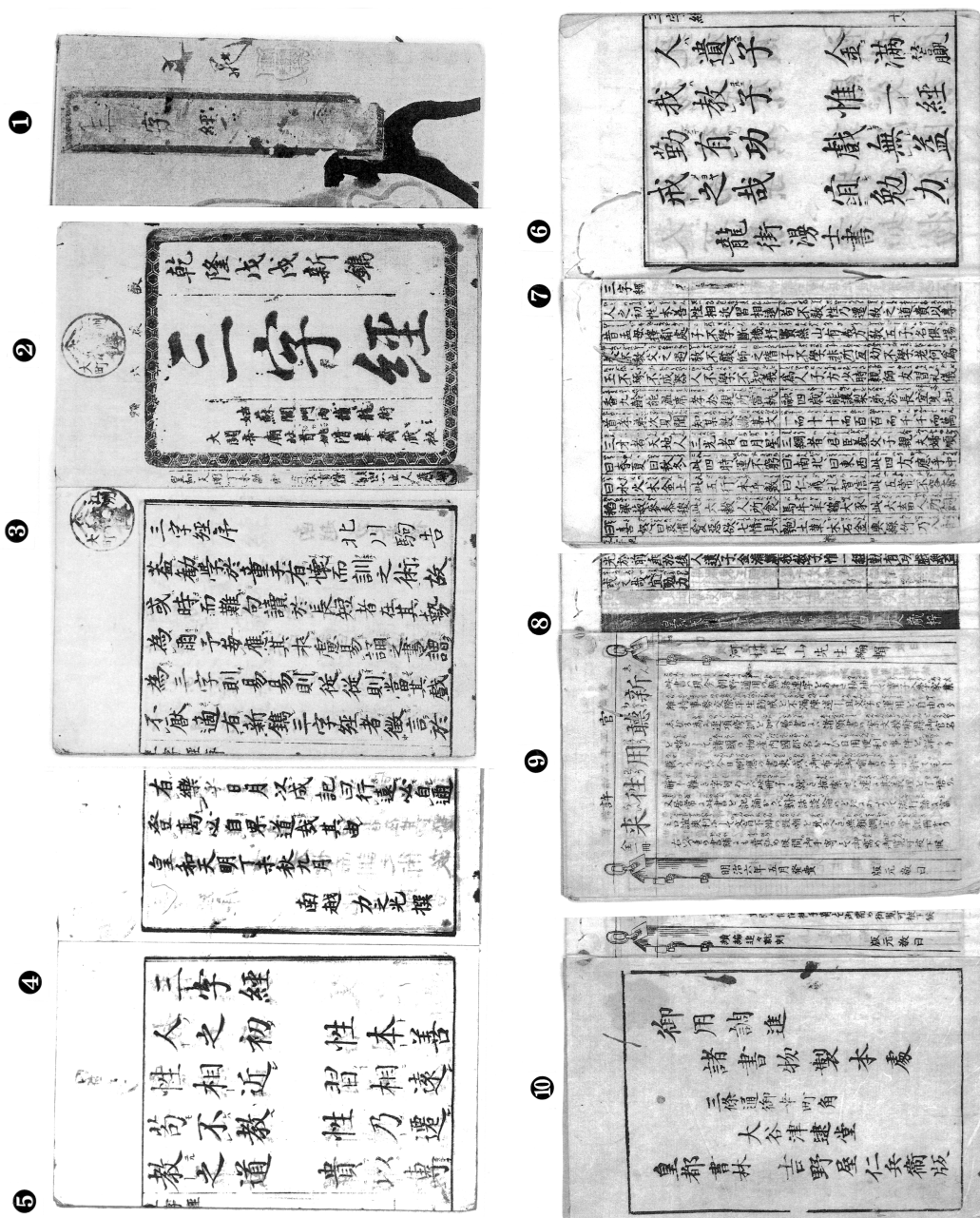
鈴有「武田氏／圖書印」「大橋／圖書／館印」「大橋圖書館／

〈昭／和〉15.9.13／受贈（圓印横書）」

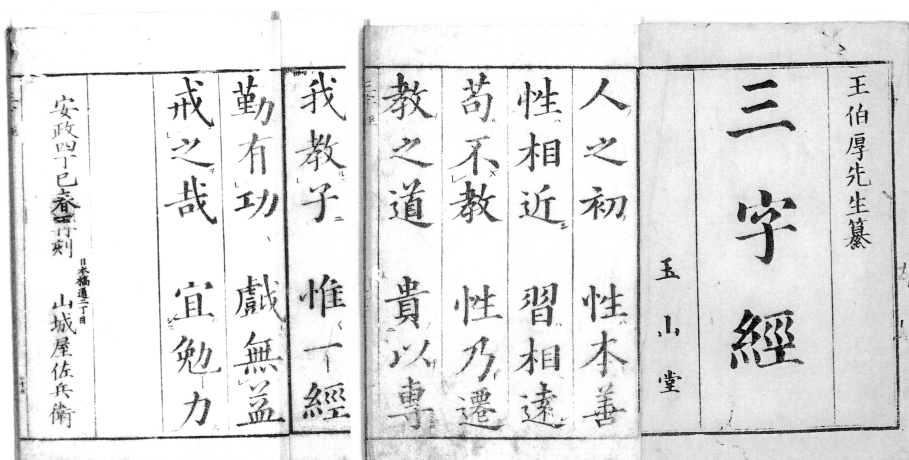
（了）

圖 1

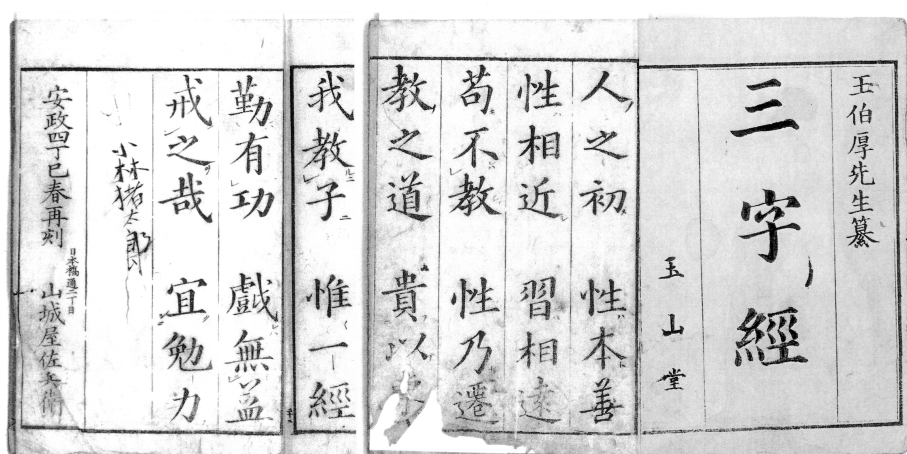
【13】家藏 13



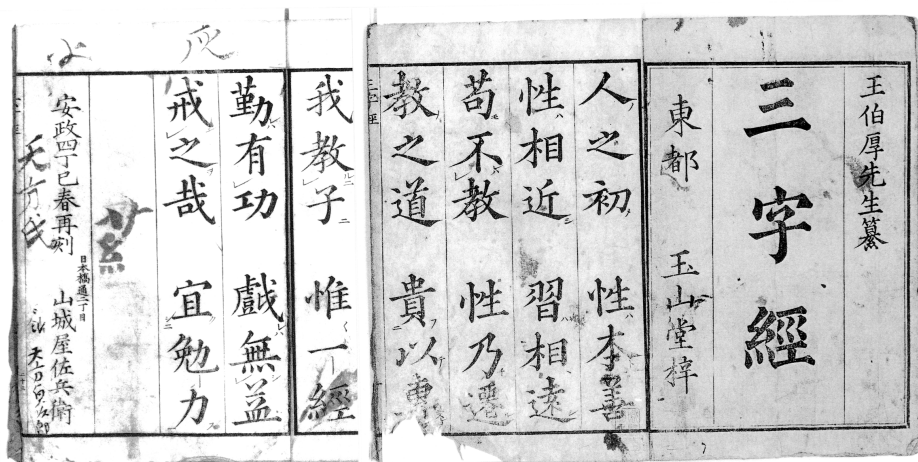
【3】家藏
圖 II



【4】家藏 9



【5】家藏 17



表の記述について

- ・文字の縮尺率は、表の大きさに合わせたものであり、均一ではない。
- ・他版にない明らかな異体字には、「(異体字)」と記した。
- ・文字は、一丁表のものをを用いたが、表⑤のみは、封面・表紙の版木が異なる点を明らかにするために、その限りとはしなかった。
- ・ある二版の明確な違いを指摘した箇所が、他の版では不明瞭な場合もあるが、全て言葉や記号で区別した。このような不明瞭な箇所は、版木や刷りの状態、または調査者によって異なる判断がなされるものである。

表① 単辺 有界四行六字 無魚尾白口

表①・1	示偏の縦線と 右一点	「性相近」 目の一二画目	羽の縦線末	「習相遠」 木偏の縦線末	艸と句	大と巳	「教之道」 子の横線	貝の一二画目	丁数の位置	特記事項
【1】 家藏 20	初 _{ツク}	相 _{ハナス}	習 _{トメ}	相 _{トメ}	苟 _{左ツク}	遷 _{ハナス}	教 _／	貴 _{ハナス}	版心右下部	
【2】 金澤 (125-9)	初 _{ツク}	相 _{ハナス}	習 _{トメ}	相 _{トメ}	苟 _{ハナス}	遷 _{ハナス}	教 _／	貴 _{ツク}	版心右下部	無点本
【3】 三康 (19-135)	初 _{ツク}	相 _{ハナス}	習 _{ハネ}	相 _{ハネ}	苟 _{左右ツク}	遷 _{左ツク}	教 _レ	貴 _{ハナス}	版心右下部	

表①・2	【4】 家藏 ⁹	【5】 家藏 ¹⁷	【10】 三康(19-136)	【11】 國會(特 42-124)
示偏の縦線と 右二点	初 _{ハナス}	初 _{ツク}	初 _{ハナス}	初 _{ハナス}
「性相近」 目の一二画目	相 _{ハナス}	相 _{ハナス}	相 _{ツク}	相 _{ハナス}
羽の縦線末	習 _{トメ}	習 _{ハネ}	習 _{ハネ}	習 _{ハネ}
「習相遠」 木偏の縦線末	相 _{トメ}	相 _{ハネ}	相 _{ハネ}	相 _{ハネ}
艸と句	苟 _{左右ツク}	苟 _{左右ツク}	苟 _{左ツク}	苟 _{ハナス}
大と巳	遷 _{ハナス}	遷 _{左右ツク}	遷 _{左ツク}	遷 _{ハナス}
「教之道」 子の横線	教 _/	教 _レ	教 _レ	(裏丁)
貝の一二画目	貴 _{ハナス}	貴 _{ハナス}	貴 _{ツク}	(裏丁)
丁数の位置	版心右下部	匡廓左下部	版心右下部	版心右下部
特記事項	版心題なし			巻頭に書名「三字経」の一行あり。

表② 左右双辺 無界五行六字 無魚尾白口

表②・1	【13】 家藏 ⁷	【14】 關大 (123/A/160)	【15】 一橋大 (Aok143)	【16】 家藏 ⁴	【17】 家藏 ⁸
右下送仮名、 縦点	「ノ」、縦点アリ	「ノ」	ナシ	ナシ	ナシ
一画目の点	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
口の二画目	ハナス	ハナス	ハナス	ハナス	ツク
「習相遠」 木偏の縦線末	トメ	ハネ	トメ	トメ	トメ
土と衣のノ	ハナス	ハナス	ツク	(異体字)	ツク
艸と句	ハナス	左ツク	右ツク	右ツク	右ツク
ノの位置	ハナス	ツク	ハナス	ハナス	ハナス
ナの左下	ハライ	ハライ	ハネ	ハネ	ハネ
目の左下の交 わり方	ナシ	ト	ナシ	ト	ナシ
特記事項	【13】のうち、状 態のよい「家藏」 を用いた。				本文末有「竜街漫 士書」

表②・2						
右下送仮名、 縦点	【18】 家藏 18	【19】 家藏 24	【21】 關大 (L23/A/1603)	【22】 家藏 10	【23】 關大 (L23/A/1602)	【32】 國會 (特42-107ロ)
一画目の点	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
口の二画目	ハナス	ハナス	ハナス	ハナス	ハナス	ハナス
「習相遠」 木偏の縦線末	トメ	トメ	トメ	トメ	トメ	トメ
土と衣のノ	ツク	ハナス	ツク	ツク	ツク	ツク
艸と句	右ツク	ハナス	左右ツク	ハナス	左右ツク	左ツク
ノの位置	ハナス	ハナス	ハナス	ハナス	ハナス	ハナス
ナの下	ハネ	ハライ	ハネ	ハライ	ハライ	ハライ
目の左下の交わり方	ナシ	ト	ト	ト	ト	ト
特記事項	筆書者名「龍街漫士」なし					

表③ 无边 無界五行六字 单魚尾白口

表③	示偏点の数	縦線末	中縦線の接線	羽の縦線末	艸と句	送仮名、縦点	之繞点の数	申と寸の間	特記事項
【18】 家藏 18	二点	トメ	三本	左右トメ	左ツク	「ユル」、縦点ナシ	一点	一	
【29】 關大 (L23/A/1606)	一点	ハネ	四本	左右ハネ	右ツク	「ユル」、縦点アリ	二点	ム	
【30】 國會 (特 42-107 ㄴ)	一点	ハネ	四本	左トメ、右ハネ	右ツク	「ユル」、縦点アリ	二点	ㄱ	
【33】 國會 (特 42-107 ㄴ)	一点	ハネ	四本	左トメ、右ハネ	ハナス	「ノ」、縦点アリ	二点	ㄱ	
【34】 國會 (特 42-107 ㄴ)	二点	トメ	四本	左右トメ	左ツク	ナシ	一点	一	
初	本	善	習	苟	教	道	專		
初	本	善	習	苟	教	道	專		
初	本	善	習	苟	教	道	專		
初	本	善	習	苟	教	道	專		
初	本	善	習	苟	教	道	專		
初	本	善	習	苟	教	道	專		
初	本	善	習	苟	教	道	專		

表④ 单边 有界五行六字

表④	旁	中縦線の接線	近の四画末	下の縦線末	ノの冒頭	「教之道」 教の下縦点	送仮名	目の左下の交 わり方	特記事項
【20】 關大 (L23/A/1605)	力	三本	トメ・ハナス	トメ	デル	アリ	ナシ	十	
【24】 玉川大 (G033)	本書は明らかに書体が異なるため、文字・記号による注は割愛する								
【31】 國會 (特 56-920)	力	三本	トメ・ツク	トメ	デル	アリ	ナシ	上	
【35】 東大總 (B40-1245)	刀	四本	左オレ	ハネ	ツク	ナシ	「ハ」アリ	レ	
【37】 國會 (特 42-109)	刀	三本	右オレ	ハネ	ツク	アリ	「ハ」アリ	ト	

表⑤ 左右双辺 無界五行六字 単魚尾白口

【25】 扶桑（假）	【26】 東書 (295.3-24)	【27】 筑波大（ル） 185-937
反の左ハライと片 ハナス	同じ位置にツク	反ハライ上にツク
ハナス	中右ツク	中ツク
角あり	角なし	角なし
左右の表記 右「啓蒙必讀」 左「融和社中藏」	右「童蒙必讀」 左「學校藏」	右「童蒙必讀」 左「學校藏」
ハナス	ハナス	ハナス
ハナス	ハナス	ハナス
「フル」	「ル」	「ル」
左右ツク	右ツク	左右ツク
アリ	ナシ	ナシ